



中央区立晴海西中学校

はるにし 5月号

令和7年5月12日

No. 2

校長 齊藤 光司

生徒数：353名

自らの「羽」で飛び立つ前に

副校長 上田 純一

晴海西中学校の2年目がスタートして1か月が経過しました。昨年度よりも生徒が増えたことや、顔の知っている仲間とともにスタートしている人が多いせいか活気がみなぎっていると感じています。

さて、本校の教育理念「5つの『わ』」ですが、その中で最も上位に位置づけられているのが「羽」です。「羽」には「社会に貢献する気概をもち、世界で活躍する人」に成長してほしいという意味が込められています。晴海はかつてから世界へ旅立つ窓口である晴海ふ頭がある場所として有名でした。また中学校は進路を自身で選択し、将来に向けて自らの意思で歩み始める時期でもあり、新たな世界へと旅立つ時期であるとも言われています。そうしたことから、本校の教育理念の最上位に位置付けられているのが「羽」であります。

多くの鳥は、雛から成鳥になり、自らの翼で飛び立ちます。飛べるようになるまでは飛べるようになることが目標なのでしょう。しかし、ひとたび自らの翼で大空を飛び回り始めると様々な困難にぶつかることと思います。急な突風や大雨など悪天候への対応、天敵からの攻撃をかわすことなど、少し考えただけでもいくつか思い当たります。大切なのは飛べるようになる前に、どのような困難があってもそれらに対応し、粘り強く飛び続けられる準備をすることです。

本校での学びもそのようであればならないと思っています。生徒たちが、自らの羽で飛び立った後には、様々な困難にぶつかります。生徒たちも鳥たちと同じように、飛べるようになる前に身に付けられる力は身に付け、困難を乗り越えなければなりません。その力は、英語を話せることかもしれません。私たちの社会に欠けているものを考え、必要なものを創り出す力かもしれません。人によって身に付けるべき力は様々かもしれませんが、自分の将来を見据え、それらの力を蓄える、自らを鍛えることはすべての中学生に共通して求められていることです。

本校では、生徒が自ら課題を見付け、追究し、解決策を考える授業を推進しています。そのような学びによって、各教科等を学ぶことで生徒が身に付けるべき力に気づき、それらを身に付けていってほしいと思っています。すなわち、そのような学びを行うことは、学ぶことの意義に気付くことにつながると思います。

ところで、生徒たちは、昨年12月の落成式で、「羽」の意味を「一人一人の夢へと羽ばたいていく」と定義しました。本校から巣立つ生徒たちが、飛び立っていく先には、それぞれの夢があるはずで、2年目を迎えた本校では、生徒がどのような方向に飛び立つかを考え、目的地までの困難を乗り越えるためのスキルを身に付けられるような教育活動を着実に推進してまいります。

5月の主な行事予定

15日(木)	避難訓練、眼科検診	21日(水)～23(金)	菅平高原移動教室(2年)
23日(金)	東根市立第三中学校来校(3年)	26日(月)	運動会練習始、体育着登校始
29日(木)	耳鼻科検診	30日(金)	委員会 英語検定全員受験(3年)

東根市立第三中学校来校予定

中央区と姉妹都市の山形県東根市にある第三中学校の3年生が5月23日(金)に本校を訪問し本校の生徒と交流を行う予定です。修学旅行の最終日に、本校を訪問するというので、お互いの地域性の違いなどを発表し合うなどした後に一緒に給食を食べる予定です。生徒会本部役員がオンラインでの打ち合わせなどで準備をしてくれています。有意義な交流となることを期待しています。

